



オリジナル発行日2010年2月2日  
日本語版発行日 2011年9月5日

## 製品安全データシート

### 1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	VINSOL RESIN
製品コード	
製造元	Pinova, Inc.
輸入会社名	ウイルバー・エリス株式会社
住所	東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル22階
電話番号	03-5532-3165
緊急時の電話番号	03-5532-3165
FAX番号	03-5532-3170
メールアドレス	
推奨用途及び使用上の制限	

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類	分類実施日	H22.9.13、事業者向けGHS分類ガイダンス(H22.3月版)を使用
物理化学的危険性		火薬類 分類対象外
健康に対する有害性		呼吸器感作性 区分1 皮膚感作性 区分1 特定標的臓器・全身毒性 区分外 (反復ばく露)
環境に対する有害性		水生環境急性有害性 区分外
ラベル要素 絵表示又はシンボル		



注意喚起語  
危険有害性情報

危険、警告  
< 危険 >  
吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ  
< 警告 >  
皮膚感作性: アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ

注意書き

(危険)  
熱溶融製品:  
目に入った場合、不治の障害や、失明を起こす可能性がある。  
皮膚に付着した場合、火傷を引き起こす可能性がある。  
煙や蒸気を吸引した場合、喉の不快感、咳、呼吸困難を引き起こす可能性がある。  
着火すると燃える可能性がある。

(警告)  
常温下で固形の製品:  
可燃性蒸気の中、もしくは近くで包装から製品を出した場合、生じた静電気によって、突発的な火災を生じることがある。  
可燃性粉塵混合物を発生することがある。  
物理的摩擦で目を刺激することがある。  
物理的摩擦で皮膚を刺激することがある。  
粉塵を吸引した場合、呼吸器を刺激することがある。  
個人によっては、皮膚アレルギー(感作)を引き起こすことがある。

(重篤な健康への影響)

製品を過熱した際に発生する煙や蒸気に長時間接した場合には喉の不快感、咳、呼吸困難を伴う呼吸器系の刺激を引き起こすことがある。繰り返し暴露を受けた場合には過敏な個人については喘息の原因になることがある。

## 国・地域情報

### 3. 組成及び成分情報

#### 化学物質

化学名又は一般名	ロジン
CAS番号	8050-09-7
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	-
濃度又は濃度範囲	100%

### 4. 応急措置

#### 吸入した場合

新鮮な空気の所に移動させる。  
鼻・のど・肺に刺激が生じた場合は、医師の治療を受ける。医師への注意参照のこと。

#### 皮膚に付着した場合

熱溶解製品：  
皮膚の火傷部を直ちに水及び氷嚢で最低15分以上冷やす。  
氷を直接皮膚に付けてはいけない。  
固まった樹脂を皮膚から剥がしてはいけない。重篤な皮膚組織を損傷する可能性がある。

直ちに医師の診断を受けること。下記の医師への注意参照。

固形製品：

石鹼と水で良く洗浄する。汚染された衣服を除去する。  
刺激が強くなったり持続する場合には医師の診断を受ける。  
衣服は再度使用する前に洗濯する。下記の医師への注意参照。

#### 目に入った場合

熱溶解製品：

火傷部を大量の低圧水で冷やす。直ちに医師の診断を受けること。

固形製品：

コンタクトレンズは外す。まぶたを開いて、直ちに低圧の水で最低15分間洗う。刺激が残る場合には医師の診断を受ける。

#### 飲み込んだ場合

少量を飲み込んだ場合は健康への悪影響はない。

大量に誤飲した場合：嘔吐させないで直ちに医師の手当てを受ける。

#### 医師に対する特別注意事項

溶解又は液状製品は強制的に皮膚から剥がしてはいけない。鉱油が製品を膨潤させたり柔らかくするのにしようされる。  
本製品は、ロジンもしくはロジン誘導体含有する。これらは長期間又は反復して皮膚に触れることで、過敏な個人によっては皮膚アレルギー(感作)を引き起こすことが報告されている。  
本製品を加熱した際に発生する煙や蒸気によって過敏な個人によっては呼吸器系アレルギー(喘息)を引き起こすことがある。

### 5. 火災時の措置

#### 消火剤

水、粉末、泡、炭酸ガス消火剤

#### 使ってはならない消火剤

情報なし

#### 特有の危険有害性

燃焼するまで加熱すると以下の物質が生成する可能性がある。  
一酸化炭素、二酸化炭素、アルデヒド類、カルボン酸類、煙

#### 特有の消火方法

情報なし

## 消火を行う者の保護

完全な防火服と呼吸維持用具を着用すること。  
熱溶融樹脂或いは高温の液状樹脂に対して、体の接触を避けるために安全で離れた場所から散水する。  
容器の亀裂を防ぐために容器を水で冷やすこと。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および  
環境に対する注意事項  
回収・中和

必要な保護具(8.参照)を装着する。

熱溶融製品:

漏洩した製品を容器に入れ、冷却して凝固させる。水はかけてはいけない。凝固化後、清掃し再使用もしくは廃棄の為に適切な容器に入れる。

固形製品:

漏出区域の換気を行う。粉塵の発生を避ける。製品が汚染されてなければ、きれいな容器に掬い取って使用する。製品が汚染されている場合は容器に掬い取って適切に廃棄する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

熱溶融製品: 項目8(暴露条件 / 保護具)に記載の保護具を装着のこと。

固形製品:

全ての設備はアースを取ること。

引火性気体が存在する場所で袋を空にするときは、不活性ガスを入れた容器中で行うこと。

作業者もアースをとり、導電性のあるアースされた投入口からゆっくり製品を投入すること。

1000ポンド(450kg)以上の大きな袋を用いる際は、アース線を必ず袋に取り付けること。

安全取扱い注意事項

熱溶融したレジンが水と接触すると泡や飛沫が発生し、目や皮膚にやけどを起すことがある。

粉塵が発生する条件をさけること。引火性粉塵混合物を形成することがある。

引火性蒸気中又はその付近で容器を空にすることは避けること。静電気により発火することがある。

熱、裸火・火花及びその他の着火源から離すこと。

換気のない場所で貯蔵し温度が上昇すると、自然過熱する可能性がある。

保管

接触回避

技術的対策

混触危険物質

保管条件

データなし

データなし

データなし

通常の温度で換気のよい場所で保管すること。

使用しないときは容器を閉じておくこと。

古いものから使用すること。

容器包装材料

データなし

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度

(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産衛学会

TWA 総粉塵 8mg/m<sup>3</sup>, 吸入性粉塵 2mg/m<sup>3</sup>

ACGIH

分類できない不溶性粉塵:

TLV-TWA 総粉塵 10mg/m<sup>3</sup>, 吸入性粉塵 3mg/m<sup>3</sup>

<b>設備対策</b>		洗眼用噴水、安全シャワーは容易に使えるようにしておく。 作業過程で、粉塵や蒸気が発生するような場合には、工程内を閉鎖し、局所排気装置もしくはその他の推奨暴露限度以下に制御する装置を使用する。換気設備からの排気は大気汚染防止法に従うこと。
<b>保護具</b>	<b>呼吸器の保護具</b>	粉塵マスク(暴露濃度が許容限界を超える可能性があるとき) 防毒マスクはOSHA Subpart I (29CFR1910.134)及び製造元推奨のものを選択して使用すること。
	<b>眼の保護具</b>	保護めがね
	<b>皮膚及び身体の保護具</b>	不浸透性の手袋(ネオプレン製を推奨) 保護服 高温の溶融物や液体に接する場合には、火傷防止の為に保護衣を着用すること。 必要とされる保護衣: a)長袖上衣、長ズボン、作業靴 b) ヘルメット、顔面マスク c) 長手袋(手首まで隠す籠手タイプ) d) 保護頭巾又は肩保護具の着いた裏打ちした雨衣 e) アルミ保護した遮熱衣
<b>保守修繕時の防護方法</b>		着火元を避け、帯電防止の措置をする。 保守修繕前に、全ての設備、配管、容器を分離し清潔に保つこと。 作業エリアを清潔に保つこと。
<b>衛生対策</b>		眼、皮膚及び衣類への接触を避けること。 粉塵やフェームの吸入を避けること。 十分な換気のある場所で作業すること。 飲食物や喫煙物の混入を避けること。 作業後、飲食や喫煙前には充分手を洗うこと。 汚れた衣服は速やかに取り除き、再使用前に十分に清浄にすること。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的 状態	形状 色 臭い pH	熱溶融液体、固体、フレーク、粉末 暗褐色 松臭 データなし
融点・凝固点		103-123 (軟化点)
沸点、初留点及び沸騰範囲		>300
引火点		188 (Pensky-Martin Closed Cup)
自然発火温度		470
燃焼性(固体、ガス)		データなし
爆発範囲		データなし
蒸気圧		20 で無視できるレベル
蒸気密度		データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1)		データなし
比重(密度)		1.3227
溶解度		水 130mg/L
オクタノール・水分配係数		データなし
分解温度		データなし
粘度		データなし
粉じん爆発下限濃度		データなし
最小発火エネルギー		データなし
体積抵抗率(導電率)		データなし

---

## 10. 安定性及び反応性

安定性	通常或いは推奨操作及び保存条件下で安定
危険重合可能性	通常或いは推奨操作及び保存条件下では予想されない

避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

### 11. 有害性情報

急性毒性 経口	LD50 (rat) >4.0g/kg ;(mouse) >3.0g/kg ; (guinea pig) >2.5g/kg (分類できない)
経皮	LD50(rabbit) >2.5g/kg (分類できない)
吸入	吸入(ガス): 非該当 吸入(蒸気): 非該当 吸入(粉じん): データなし
皮膚腐食性・刺激性	皮膚刺激性あり。(分類できない)
眼に対する重篤な損傷・刺激性	眼球刺激性あり。(分類できない)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	ロジン及びある種のロジン誘導体: 皮膚感作性(区分1) 吸入感作性(喘息)(区分1)
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	NTP/OSHA/IARCの発がん物質リストになし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	90日間亜急性毒性(rat) NOEL 0.2-1.0% in diet (100-500mg/kg/day) 2年間慢性毒性 (rat,dog) NOEL 0.05% in diet (12.5-25mg/kg/day)(区分2)
吸引性呼吸器有害性	データなし

### 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	96-hr LL50(Fathead minnow) >1000mg/L (区分外) 48-hr EL50(Daphnia magna) 911mg/L NOEL 750mg/L(区分外) 72-hr EL50(Algae growth inhibition test) >1000mg/L(区分外)
水生環境慢性有害性	本製品又は類似物質からのデータに基づき、この製品は容易に生分解するとみなすことができないが、緩やかに生分解すると思われる。

### 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	固形及び冷却、固形化された熱融解製品: 許可された固体或いは有害廃棄物施設への埋立てが推奨される。本製品の取り扱い、輸送、廃棄は迷惑となるような粉塵被害を防止するように行うこと。取り扱い前には充分容器を密閉し、外部漏洩を防止する。大量、準大量の廃棄に関して制限がないことを確認する。廃棄は法令や条例に従うこと。
汚染容器及び包装	上記参照

### 14. 輸送上の注意

**規制**

熱溶解又は高温液状物：  
危険物質規制を受ける。この製品の輸送に関する情報はメーカー又は代理店に問い合わせること。  
固形物：  
輸送規制は受けない。この製品の輸送に関する情報はメーカー又は代理店に問い合わせること。

**緊急時応急措置指針番号**

ロジン 358

---

**15. 適用法令**

労働安全衛生法	通知対象物質(0.1%以上)
消防法	第4類第3石油類非水溶性
毒劇法	該当しない
大気汚染防止法	該当しない
海洋汚染防止法	該当しない
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	該当しない

**海外登録情報**

US TSCA 登録済み  
EU EINECS 登録済み  
Canada CEPA/DSL 登録済み  
韓国 KECL 登録済み

---

**16. その他の情報**

HMIS評価	健康: 0 (Minimal Hazard) 可燃性: 1 (Slight Hazard) 反応性: 0 (Minimal Hazard)
--------	---

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。  
取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。  
従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。